

令和7年度 学校評価表(中間)														三原市立西小学校(校番5)																															
a 学校教育目標			夢や目標の実現に向けて、 自ら学び ともに伸びようと行動する児童の育成			b 経営理念 ミッション・ビジョン			【ミッション】 志を抱き、その実現に向けて考え、行動できる未来の創り手の育成 【ビジョン】 「自ら学び ともに伸びようと行動する」という教育風土がある学校 ＜めざす学校像＞ 「安心安全な学校」「すべての児童に学びの居場所がある学校」「すべての児童に主体的な学びを実現する学校」 ＜めざす子供像＞ 「規律あるかわり合いを通して、自ら考えともに伸びようとする子供」「ふるさとに愛情と誇りを抱く子供」 ＜めざす教職員像＞ 「児童を守り、育て、育む」という職責を自覚し、行動する教職員																																				
評価計画																																													
c 中期経営目標		e目標達成のための具体的方策(大枠)		f 評価項目		指標		令和7年度 h 達成値 (参考)	目標値		10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析		改善方策 n		学校関係者 l 評価 m																										
																		イ	ロ	ハ	コメント																								
確かな学力	【主体的な学びを実現する授業づくりによる学力定着】		単元末テスト(国語、算数、社会、理科)の学級平均値が指標に示す点を超える教科数(20教科) 【評価時期】(7月 12月)		平均値 1・2年生(90点) 3・4年生(85点) 5・6年生(80点)		60%		88／88 教科	60%						単元末テストに関わる指標の達成値は、学校全体では約60%と目標に届かなかった。学年別にみると次のようになった。 <table><tr><th></th><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>4年</th><th>5年</th><th>6年</th><th>全体</th></tr><tr><td>達成数</td><td>4/8</td><td>0/8</td><td>8/16</td><td>4/16</td><td>22/24</td><td>15/16</td><td>53/88</td></tr><tr><td>達成率</td><td>50.0%</td><td>0.0%</td><td>50.0%</td><td>25.0%</td><td>91.7%</td><td>93.8%</td><td>60.20%</td></tr></table> ○この結果から、低・中学年で課題が大きいと見られる。しかし、1年生は全項目で87点以上の学級平均点であることから、大きな課題があるとは言い難い。よって、2～4年生において、課題があると考ええる。 ○児童アンケートにおいては、2項目とも目標を達成した。特に、(あ)の項目においては、95%近くの児童が肯定回答をしており、強い肯定回答も57.5%と過半数を超える状況であった。児童は「授業はよくわかる」と捉えている一方で、学力に関わる目標指標には届いていない。算数科に限定して見ると、学校全体の平均点が知識・技能で88.9点(昨年度比+2.9点)、思考・判断・表現等で83.4点(昨年度比+9.1点)であり、向上している。 ○教職員アンケートから、ICTの活用に課題が見られた。聞き取りをする中で、ICT活用に苦手意識のある教員もいることや、授業導入時に必ずデジタル教材を活用することに抵抗があることなどが明らかとなった。		1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体	達成数	4/8	0/8	8/16	4/16	22/24	15/16	53/88	達成率	50.0%	0.0%	50.0%	25.0%	91.7%	93.8%	60.20%	学習内容の定着に関わって、以下の5つの取組を行っている。 ①学力定着に関わる分析及び取組の計画・実施 夏季休業中に、各学年で1学期の学習内容の振り返りと2学期の振り返りような内容を分析し、具体的な取組や定着の見取りについて計画・実施し、進捗を確認しながら学力を定着を図る。 ②学習規律の徹底 児童が落ち着いて学習に臨めるように、生徒指導部と連携して授業で守るべき5つのルールを定め、学校全体で定着を図る。 ③学力定着に向けた校内体制づくり 学んだことを「やりきる」という風土を作ることによって学力の定着を図るため、テストやドリルなどの直しやその日の学びが不十分である児童を毎日、一斉下校後の20分間、「やりきるタイム」を設定し、担任、管理職や専科の教員でやり切らせて下校させる体制を作る。また、学力に課題の見られた2～4年生を中心に、複数体制で学力定着に向けた取組が実施できる校内体制づくりを進めていく。5、6年生については、教科担任制の機能を活用し、空き時間が生まれる教員が習熟が必要な時間などでT2での指導に入る体制を創る。 ④ICTの効果的な活用に向けて、校内のICT担当が、夏季休業中に短時間のICT二研修を継続的に実施し、負担感なく活用技術を学べる機会を設定する。 ⑤R80による振り返りはできつつある。しかし、R80から逆算した授業づくりについては、今後も研修をしながら進めていく。		5人中5人	・目標値に届かなかった課題について細かく分析し、児童個々の課題や指導の課題を明確にして取り組んでほしい。 ・やりきるタイムは一つの工夫で成果を期待する。教職員全体での時間も大切にやりきってほしい。 ・児童の学力向上は指導者の指導力向上が不可欠。自己研修、校内研修教職員間の授業改善の工夫をしっかりと交流してほしい。 ・複数体制での学力定着に向けた取組や、教科担任制の機能を活用してT2指導を継続してほしい。 ・R80は振り返ってのことで再度やり直すという意味合いと思うが、逆算した授業づくりの形態が自分にとっては不明である。 ・ICT活用については、教職員にも児童にも苦手意識のある者がいると思われる。やる気の起こる研修が必要である。 ・改善方策により生徒の授業理解度と、学力目標値が相対することを期待する。	
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体																																					
達成数	4/8	0/8	8/16	4/16	22/24	15/16	53/88																																						
達成率	50.0%	0.0%	50.0%	25.0%	91.7%	93.8%	60.20%																																						
主体的な学びを実現する取組を通し、学力の定着と本校の目指す資質・能力の育成を追究する		課題に対して根拠を伴う論理的な自分の考えをもち、互い意見を大切にし、自らの考えを高める R80を核とした授業デザインを通して、各学年で身に付けるべき学力を確実に定着させる		・根拠をもとに考えたことから自分の考えを表現する授業づくり(下線を引く、三角ロジックなど)【研究部】 ・「なぜだろう」と強く感じる「問い(めあて)」と、「問い(めあて)」に対する「答え(まとめ)」を設定した授業づくり【研究部】 ・「R80」を活用した「学びのゴール」から逆算した「めあて」を設定し、45分間でデザインした授業づくり ・学習規律の徹底し、親和性のある学習集団づくり【研究部】【生徒指導部】 ・ねらいを達成するために、ICT機器等を活用した授業づくり【研究部】 ・実生活や実社会の課題を解決するプロジェクト型学習の充実【研究部】		肯定的評価の全学年平均割合		(あ)94.4%(い)86.3%	(あ)85%(い)85%	(あ)111%(い)102%		93.8%	B																																
豊かな心と親和性の高い集団	【規範意識の育成】		ichack「自己肯定感」「学級適応感」のクロス集計結果が全国平均以上の児童の割合 【評価時期】(6月 12月)		全国平均を上回る学級数		8／13 学級		12／13 学級	67%					○ichack「自己肯定感」「学級適応感」のクロス集計結果は、13学級中8学級が全国平均を上回った。 ○教職員アンケートによる調査「全ての児童に学びの場がある。」については、96%だった。所属学級だけではなく、SSRを利用する児童(4名)、リモート授業(1名)がいる。また、保健室で気持ちのクールダウンをすれば、教室で授業を受けることのできる児童もいる。ただ、不登校児童に学びの場を提供しようと働きかけているものの、それらを活用できず、登校しにくい児童が2名いる。 ○児童質問紙によるアンケート調査については、「きまりやルールを守る」に注意されたら、1回で直す」の項目に関して、日々の教員の声掛けや校長による給食放送での評価により、90%以上の肯定的評価を得た。しかしこの結果について、教員の見取りとのギャップが大きく、きまりやルールを守れていない児童も多い。 ○「自分の良さ」「あきらめず努力すること」「将来の夢」などに関する項目が80%台であり、「自分も一人の人間として大切にされている」という自己存在感や、ありのままの自分を肯定的に捉える自己肯定感、他者のために役立った、認められたという自己有用感などの低い児童が一定数いる。 ○いじめ事業やいじめにつながる事業の早期発見に向けて1学期末と2学期初めに、個人面談(全校児童)を実施した。いじめに関する事業に気付いた場合は、素早く学年主任、生徒指導主事、養護教諭、管理職と連携して、複数対応を行った。被害児童の心のケアはもちろん、加害児童には特別な指導を行ったり、保護者に来校を求め、今後のより良い成長に向けて、三者で確認を行った。ただ、先生や友達に相談しにくい児童が2割いることから、常に児童の様子に注意して、教育活動を行う必要がある。	安心して学べる学習環境の基盤となる。規範意識の醸成を図るとともに、自己を尊重する心・態度を育成する		5人中5人	・不登校児童への安心安全な教育環境づくりは大変良い取組だと思う。児童へは課題を克服したことや成長を評価し、児童の肯定感を高めてほしい。 ・教科指導、生徒指導の両輪での取組姿勢がよく見える。児童の現状や課題成長を教職員間でしっかりと交流してほしい。 ・改善方策の地産な取組の継続を願う。 ・自己肯定感の低い児童については個別に校内でSC、SSW等と連携をとり見守る支援が必要である。 ・どこにもつながっていない児童については継続した取組が必要である。自宅からのリモートの活用してほしい。																										
	【共感的な人間関係づくり】		児童に所属意識を持たせ、円滑な集団生活の基盤となる(規範意識・ルール・マナー等)を身に付けさせる 児童に、他者とかわり合う場面を与え、その中で、自己肯定感を高めさせるとともに、相手を大切にすると心と態度を身に付けさせる		児童の割合100%		96%	100%	96%		95%	B																																	
健やかな体	【生涯にわたって健康づくりをしようとする健康教育の充実】 【生涯にわたって運動しようとする心身の育成につながる授業改善】		児童質問紙よりアンケートによる調査 (さ)体育の授業は楽しい		肯定的評価の割合		(さ)88%	(さ)90%	(さ)98%		97.3%	B	○児童質問紙よりアンケート「体育の授業は楽しい」「運動することは楽しい」の肯定的評価は88%であった。また、2つの項目とも昨年度より5ポイント高い結果であった。この結果から、引き続き、児童の運動量がある「楽しい体育」の授業づくりに取り組む必要がある。また、外遊びをしている児童の数は多くはないが、これらの2項目が数値が高いのは授業改善によるものと考えられる。 ○「おうちで決めた時刻に寝ている」の項目は77%であった。この項目については、長年、課題がある。また、学年やクラスによつたつきがあり、高学年ほど数値が低い傾向にあることが分かった。家庭と連携した取組が引き続き必要である。	生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する		5人中5人	・寝る時間は各家庭の課題もあると思う。体育科の工夫や外遊びを通して学校での運動量を増やす工夫をしてほしい。 ・子どもたちの体が健康に発達して欲しいと思う。 ・通学していく児童に「学校で何が好きな?」と聞く(と)図画(心の優しい子だね?」「体育(頑張ってるんだね)」と答える子どもたちはニコッと笑顔。言葉も好効果を生むと思う。 ・家で決めた時刻に寝ていない児童の理由は?夜遅くまでスマホゲームをしている実態は?実態があるのならゲーム依存などの指導が必要である。																												
	教育課題に適切に対応する学校体制を再構築するとともに、学校行事及び総合的な学習の時間の内容を精選することを通して、児童に向き合う時間を確保するとともに、職員の健康を維持する。		○市の方針「勤務時間上限の目安時間」「上限の目安時間及び特例的な扱い」に記載されている内容を達成する。 上限目安時間・45時間/月を超えない。・360時間/年を超えない。 特例的な扱い・720時間/年を超えない。・45時間/月を超えない月。・1年間に6月まで。・連続する複数月のそれぞれ期間について、1カ月当たりの平均が80時間を超えない。 【評価時期】(8月末・1月末)		勤務時間外の在在校時間 全教職員年間360時間以内、月45時間以内の割合		70%	100%	69.5%		69.5%	C	○年度初め～1学期間は、学級づくり及び生徒指導事業に対応するとともに、生徒指導事業の未然防止に組織的に取り組める体制づくりに多くの時間をかける必要があった。そのため、45時間を超える勤務時間外の割合が高くなった。 ○2学期に入り、組織的に取り組める体制が進み始め、教職員一人一人が勤務にかける時間の軽重を図りながら動き姿が見受けられる。後期は働き方のバランスを意識した動きを進めていく。	①生徒指導事業の未然防止を組織的に取り組む ②行事の内容を精選し、児童に向き合う時間の確保を継続して進める。 ③時間の軽重を考え、効果的な働き方バランスを意識していく。		5人中5人	・生徒指導の重要性はよく理解できる。兄弟姉妹や若年、年輩ベアラーでの生徒指導の工夫をし、少しでも時間が減少できればよい。 ・先生方が無理のないように取り組まれることを願う。 ・教職員のメンタルヘルス相談の充実をはかってほしい。																												
研究主題																主体的に考え、ともに伸びようと学ぶ児童の育成 ～論理的に考えを形成し、ともに高め合う国語科授業づくりを通して～																													
【自己評価 評価】 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100																イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。																													